

第2回和光市未来技術地域実装協議会 議事要旨

1. 日 時： 令和3年5月11日（火）午前10時00分～午前11時00分
2. 場 所： Web会議
3. 出席者： 出席委員名簿のとおり
4. 議 事：
 - ・規約の変更 資料(1)
 - ・第1回住民説明会の実施報告 資料(2)
 - ・地方創生推進交付金の交付決定 資料(2)
 - ・自動運転車両専用レーン設計 資料(3)-1
 - ・自動運転の公道実証実験に係る道路使用許可基準等 資料(3)-2

5. 要 旨

(1) 資料(1)により、協議会規約の変更案について採決を行い、原案のとおり決定した。

(2) 資料(2)により、第1回住民説明会の実施報告及び地方創生推進交付金の交付決定について市より説明を行い、以下の内容について質疑を行った。

1) 住民説明会の内容（緑地帯等の環境対策）

事務局からは、住民から一定の理解を得ているとの説明だが、引き続き、環境面、植樹帯、安全面等の意見について、地域住民の理解が得られるよう各種検討・対応をお願いする。

(3) 資料(3)-1により、自動運転車両専用レーン設計について、市より提案内容を説明し、以下の内容をはじめとした意見交換を行った。

1) 信号機への対応

自動運転車両が安全に信号交差点を通過することが重要と考える。このため1期の社会実験区間には信号交差点を含んでいないが、実験区間の延長なども含め、信号交差点に関する検討を進めるべき。

2) 自動運転車両

就業者輸送に対応するため、自動運転車両は定員10名以上の小型バスタイプを想定しており、次回協議回以降は小型バスの開発事業者等も委員やWGに加え議論することとする。

また、自動運転車両の機能として、手動と自動の切り替えの即時性については車種

に依存するため確認が必要である。

なお、交差点や一般車両と交錯する部分については手動⇔自動の切り替えによって対応が可能なものか実証実験を通して確認し、運行マニュアルとして整理し、リスクアセスメントを図っていく必要がある。

3) ネットワーク再編についての取り組みとの整合

今回の実証実験では空間的な適用性（歩行者や自転車等との交通流の錯綜を回避）と技術的な適用性（車両の走行精度による必要幅員の見極め、信号やボラード等の連携すべき施設等）を確認できるとよい。それらは今後の進め方にあるWGで精査していただきたい。

また、MaaSの取組にあるアプリの機能として、決済の簡素化を取り入れることで、乗降のタイムロスを減らすことを図る視点での検討は好ましい。

4) 5Gの整備必要性

現況の自動運転車両の開発に係っては基本的には4G（LTE）で通信することができるといえる状態であるため、既存の通信インフラのままでも大方問題ない。

ただし、車両によっては専用回線が必要になる場合もあるため車両選定の際に検討を行うべき。

5) 今後のハード整備に関する費用負担

内閣府の地方創生推進交付金は計画立案や設計等の費用分であるため、専用レーン整備に必要な工事費等の予算獲得の課題が残っている。

その際、2期には県管理区間もあるため、国・県・市で協力しながら進めていく。

- (4) 資料(3)-2により、自動運転の行動実証実験に係る道路使用許可基準等について、警察庁よりガイドライン等の概要説明を行った。当ガイドラインに則り、県警本部・朝霞警察署を中心に協議を重ね実証実験を行うこととする。

以上